



記者会見 第50回ギャラクシー賞

ギャラクシー賞贈賞式のご案内

各部門入賞作品の解説

マイベストTV賞グランプリの発表

■日時 5月23日（木曜日）3：00～4：00PM（15:00-16:00）

■会場 ラジオ・テレビ記者会（NHK内）

■出席者（予定）

放送批評懇談会 専務理事 橋本隆（はしもと・たかし）
放送批評懇談会 選奨事業委員長 藤久ミネ（ふじひさ・みね）
放送批評懇談会 テレビ部門委員長 丹羽美之（にわ・よしゆき）
放送批評懇談会 ラジオ部門委員長 桜井聖子（さくらい・きよこ）
放送批評懇談会 CM部門委員長 五井千鶴子（ごい・ちづこ）
放送批評懇談会 報道活動部門委員長 鈴木嘉一（すずき・よしかず）
放送批評懇談会 マイベストTV賞プロジェクトリーダー 滝野俊一（たきの・としかず）

■会見内容

1. 第50回ギャラクシー賞贈賞式のご案内
2. テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品解説
3. 志賀信夫賞（第4回）の紹介と解説
4. マイベストTV賞グランプリ（第7回）の発表
5. 質疑応答

■この件に関するお問合せ先

特定非営利活動法人/NPO放送批評懇談会

中島好登（なかじま・こと）

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

Email kondankai@houkon.jp HP <http://www.houkon.jp>



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

<詳報>第50回ギャラクシー賞入賞作品決定

平素より当会にはご理解ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として50年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」の、今年度の入賞作品が決定しました。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品は別紙のとおりです。

各部門とも、この入賞作品の中から、大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、6月3日に開催する贈賞式で発表、表彰いたします。志賀信夫賞、テレビ部門個人賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞は以下の通り確定いたしました。ぜひ記事にお取り上げいただくとともに、6月3日の贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道いただくようお願い申し上げます。

■志賀信夫賞（2本）

藤田 潔 ビデオプロモーション取締役名誉会長

TBS [調査情報]

■個人賞

堺 雅人 「リーガル・ハイ」（フジテレビ）、「大奥～誕生[有功・家光篇]」（TBS）の演技

■DJパーソナリティ賞

ピーター・バラカン

「Barakan Morning」（Inter FM）、「Tokyo Midtown presents The Lifestyle MUSEUM」（TOKYO FM）「ウィークエンドサンシャイン」（NHK）パーソナリティとして

<贈賞式日程>

日時 2013年6月3日（月曜日）贈賞式 16:30～18:30

会場 ウェスティンホテル東京 ギャラクシールーム

東京都目黒区三田1-4-1（恵比寿ガーデンプレイス内） Tel. 03-5423-7000

NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

〒160-0022 新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510 kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp>



第 50 回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2013年6月3日（月曜日）

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付 15:15、取材開場 15:30、開演 16:30

取材要領

■ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。

■スペースの都合により1紙/誌につき1人（カメラ別）、1番組につき1クルーでお願いします。

■撮影希望者（スチール、ムービーとも）は、15:15までに取材受付にご集合ください。（カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。）

第 50 回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

会社名	
媒体名/番組名	
住所 〒	
担当者	Tel.
Email	Fax.
取材人数	スチールカメラ あり なし
	テレビカメラ あり なし



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で記念すべ第50回（2012年度）を迎えた。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。

今年、ギャラクシー賞は50回を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとしてデビューする。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎゃらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。

第50回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[2012年4月1日 ~ 2013年3月31日]

◎志賀信夫賞

藤田 潔
TBS「調査情報」

◎テレビ部門

- 復帰40周年特別番組「ゴリmeets復帰っ子～不惑をむかえた沖縄 2時間激論～」琉球放送
- ザ・ノンフィクション「偏差値じゃない。～奇跡の高校将棋部～」フジテレビジョン
- リーガル・ハイ
フジテレビジョン 共同テレビジョン
- 三つの名を生きた兵士たち～台湾先住民“高砂族”の20世紀～
日本放送協会 テムジン NHKエデュケーショナル
- バリバラ「障害者の性① セックスの悩み」
日本放送協会
- こうして僕は医師になる～沖縄県立中部病院 研修日記～
日本放送協会 NHKエンタープライズ
- NHKスペシャル シリーズ東日本大震災「追跡 復興予算19兆円」
日本放送協会
- 東北Zスペシャル「住民合意への道～誰もがいち早い復興を願っていた～」
日本放送協会
- 報道特別番組「標的の村～国に訴えられた東村・高江の住民たち」
琉球朝日放送
- TXN衆院選スペシャル「池上彰の総選挙ライブ」
テレビ東京
- NNNDキュメント'13 3.11大震災シリーズ「活断層と原発、そして廃炉～アメリカ、ドイツ、日本の選択～」
日本テレビ放送網
- はたらく人になろう 大垣特別支援学校2013卒業の春
大垣ケーブルテレビ
- 最高の離婚
フジテレビジョン
- 特集ドラマ「ラジオ」
日本放送協会 テレビマンユニオン NHKエンタープライズ

特別賞

タモリ倶楽部

テレビ朝日 田辺エージェンシー ハウフルス

個人賞

堺 雅人

「リーガル・ハイ」(フジテレビ)、「大奥～誕生[有功・家光篇]」(TBS)の演技

◎報道活動部門

- 続・市営散弾銃射撃場 鉛汚染問題における一連の報道
伊万里ケーブルテレビジョン
- OTVスーパーニュース シリーズ企画「復帰を知る」
沖縄テレビ放送
- 太平洋核実験被害の真実を伝える「放射線を浴びたX年後」映画自主上映を含む報道活動
南海放送
- 南相馬市小高区の農地復旧における一連の報道
福島放送
- 重い病気の子どものための“そらぶちキッズキャンプ”を伝え一連の報道
北海道テレビ放送
- Jump Over Cancer MBSがん検診啓発キャンペーン
毎日放送

◎ラジオ部門

- 凍えた部屋～姉妹の“孤立死”が問うもの～
北海道放送
- RBCiラジオスペシャル 復帰40周年特別番組 ラジオドラマ「40才のタンカーユーエー」
琉球放送
- 日々感謝。ヒビカン
中国放送
- 特集オーディオドラマ「橋爪功ひとり芝居 おとこのはなし」
日本放送協会
- J-WAVE PLUS 地点 introducing “光のない。”
J-WAVE
- 調律師という芸術家～最高の音楽を作る究極のピアノ調律師
朝日放送
- 三宅裕司 サンデーヒットパラダイス
ニッポン放送
- 報道特別番組「原発作業員が語る2年」
毎日放送

特別賞

小沢昭一さん追悼特別番組～あしたのこころだ…小沢昭一について考える
TBSラジオ&コミュニケーションズ

DJパーソナリティ賞

ピーター・バラカン

「Barakan Morning」(Inter FM)、「Tokyo Midtown presents The Lifestyle MUSEUM」(TOKYO FM)、「ウィークエンドサンシャイン」(NHK) パーソナリティとして

◎CM部門

- 赤城乳業 BLACK シリーズ「じゃない篇」「ガリガリ君の会社篇」「売上篇」
赤城乳業 電通東日本 電通関西支社 アットアームズ
- アステラス製薬 企業 シリーズ「僕は、アステラスのくすり。」
アステラス製薬 博報堂 アンデスフィルム
- 江崎グリコ アーモンドピーク シリーズ「オリエン篇」「ブランニング篇」「プレゼン篇」
江崎グリコ シンガタ 電通 電通関西支社 東北新社
- 大塚製薬 カロリーメイト「とどけ、熱量。篇」
大塚製薬 博報堂 AOI Pro.
- キヤノンマーケティングジャパン EOS Kiss X6i シリーズEOSはじめてにKissしよう「夏篇」「秋篇」
キヤノンマーケティングジャパン 電通 電通クリエイティブX
- キリンビール キリン のどごしく生> シリーズ のどごしく夢のドリーム「プロレス篇」
キリンビール 電通 ティー・ワイ・オー
- クロスカンパニー earth music&ecology シリーズ2012春「運ぶ篇」2012初夏「ノコギリ篇」2012盛夏「ポート篇」
クロスカンパニー シンガタ トレードマーク 電通西日本 ギークビクチュアズ
- 全日本空輸 60周年 企業 シリーズココロノツバサ「DELHI篇」「MYANMAR篇」「NY篇」
全日本空輸 電通 ロボット
- 東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「交通事故で、死なない。死なせない。」
東海テレビ放送 電通中部支社
- ナイキジャパン NIKE BASEBALL「宣誓篇」
ナイキジャパン Wieden+Kennedy Tokyo AOI Pro.
- 本田技研工業 企業「負けるもんか(プロダクト)篇」
本田技研工業 電通 TYOモンスター TYOproductions
- ムラタ漢方 梅花五福丸 シリーズ「バッティングセンター」
ムラタ漢方 電通 電通クリエイティブX
- YKK AP 企業 シリーズ「映画と窓」「文学と窓」
YKK AP 電通 ビルド・クリエイティブハウス エンジンプラス

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月3日(月)開催「第50回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。

詳しい結果は6月6日(木)発売の「GALAC」2013年7月号に記載いたしますので、ご覧ください



◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年 2 回(上期・下期)、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考が行なわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年 6 月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。

「志賀信夫賞」について

■会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア志賀信夫氏の長年にわたる放送界への功績を記念して、2009 年度に新設されました。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰します。したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で近年大きな功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図があります。

■志賀信夫 しが・のぶお／1929(昭和 4)～2012(平成 24)。放送評論家。福島県生まれ。53 年早稲田大学大学院文学研究科修了。57 年同大学講師。60 年放送評論家として独立。63 年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78 年同理事長。79 年共立女子大学講師。81 年メディアワークショップ代表理事。85 年ビデオ映像文化振興財団理事。90 年多摩大学講師。NAB(全米放送事業者協会)東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK 演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」(源 遼)、 「BS/CS 衛星放送新時代」(電波新聞社)、「映像の先駆者 125 人の肖像」(NHK 出版)など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を 30 年にわたり出版。2003 年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



第 50 回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2012 年度の傾向と選考経過

■テレビ部門■

委員長 丹羽美之

副委員長 中町綾子

委員 岡田芳江 河野尚行 滝野俊一 戸田桂太 桧山珠美 藤久ミネ 古川柳子 水島宏明
宮崎美紀子

2012 年度のギャラクシー賞テレビ部門には、上期 136 本、下期 149 本、計 285 本の応募が寄せられました（その内訳は、地上波が 202 本、BS・CS が 52 本、制作会社が 24 本、ケーブルテレビが 7 本）。今回も全国の放送局や制作会社から、数多くの優れた番組が集まり、応募本数は史上最多となりました。これらの応募番組と月間賞受賞番組（48 本）について討議を重ねた結果、最終的に 14 番組の入賞が決定しました（『入賞作品一覧』参照）。

●報道・ドキュメンタリーのジャンルでは、東日本大震災の風化・忘却が指摘されるなか、震災 2 年目の日本社会の課題を鋭く問題提起した番組群が入賞しました（NHK スペシャル「追跡 復興予算 19 兆円」、東北 Z スペシャル「住民合意への道」、NNN ドキュメント” 13 「活断層と原発、そして廃炉」）。

●一方、ドラマのジャンルでは、ようやく震災後の社会にフィクションとして直接的・間接的に向き合う作品群が登場しました。現代社会への批評精神に富んだドラマ、被災した人々の想いを丁寧に掬い上げるドラマが評価を集めました。（「リーガル・ハイ」、「最高の離婚」、「ラジオ」）。

●また 2012 年は、政権交代の年であり、沖縄の本土復帰から 40 年の節目の年でもありました。選挙や基地問題をめぐって、政治のあり方やテレビの役割を考えさせる特別番組、討論番組、ドキュメンタリーなどが入賞しました（「池上彰の総選挙ライブ」、「ゴリ meets 復帰っ子」、「標的の村」）。

●この他にも、現代の若者の青春群像を追いかけた番組（ザ・ノンフィクション「偏差値じゃない」、「こうして僕らは医師になる」、「はたらくひとになろう」）、国家と戦争に翻弄された台湾先住民の歴史に迫る番組（「三つの名を生きた兵士たち」）、タブーを恐れず「障害者バラエティ」という新境地を切り開いた番組（「バリバラ」）など、秀作・力作が目立ちました。

（丹羽美之）



テレビ部門特別賞

「タモリ倶楽部」 テレビ朝日 田辺エージェンシー ハウフルス

1982年10月の放送開始以来、30年以上も続く奇跡の深夜番組です。毎回、マニアしか興味を示さないような素材を、タモリやゲストの軽妙なトークなどで、一般の視聴者にも楽しめようとする着眼点と構成力は極めて独創的。特に「タモリ電車クラブ」まで発足させた鉄道関連のテーマの回は、どんな切り口で見せてくれるのか興味津々です。かといって、きっちりと計算されたわけではなく、緩い感じで進行するのも大きな魅力。まさに元祖脱力系といえる番組です。また、バラエティにはめったに出演しない俳優やミュージシャンが登場するのも見どころのひとつ。さらにミニコーナー「空耳アワー」は、選曲もさることながら、再現ドラマの楽しさは秀逸です。

テレビ部門個人賞

堺 雅人 「リーガル・ハイ」(フジテレビ)、「大奥～誕生[有功・家光篇]」(TBS)の演技

「リーガル・ハイ」では、一気呵成にまくしたてて他を圧倒する嫌みな弁護士を熱演しました。コミカルでエキセントリックなキャラクターを演じるだけでなく、束の間に恋人の敏腕弁護士へのコンプレックスをよぎらせる。そういった演技が、エンタテインメントとしてフィクションを楽しませ、弁護士の言葉に宿るメッセージを引き出します。このドラマが、社会への批評や他のテレビドラマへの批評に耐えるものであったのは、古沢良太脚本を見事に肉体化した彼の演技があつてのことです。

また、「大奥」では、女將軍の側室となった僧侶を穏やかな物腰とまなざしで演じ、殺伐とした時代・状況にある知性を体現します。その静謐な佇まいは、ドラマに登場する他の登場人物に宿る思いもシリアスに浮き立たせていました。

著しい戯画化によって描かれるテレビドラマが多い昨今、その人物設定も大きくデフォルメされます。堺雅人の演技は、そういった人物像に血肉を通わせ、フィクションの世界にあるメッセージを導き出して強い輝きを放ちます。

<プロフィール>

さかい・まさと 1973年生まれ、宮崎県宮崎市出身。92年から劇団東京オレンジ(早稲田劇研)にて活動を始め、看板役者として注目を集める。現在はテレビ、映画、舞台などで活躍。主なテレビドラマにNHK「新選組!」、KTV「ヒミツの花園」、NHK「篤姫」、TBS「官僚たちの夏」、CX「ジョーカー許されざる捜査官」、NHKBSプレミアム「塚原ト伝」、CX「リーガル・ハイ」、TBS「大奥～誕生(有功・家光篇)」など。映画に2008年「ジャージの二人」、2009年「南極料理人」、「クヒオ大佐」、2010年「ゴールデンランバー」「武士の家計簿」、2011年「日輪の遺産」「ツレがうつになりまして。」、2012年「鍵泥棒のメソッド」「その夜の侍」「大奥～永遠(右衛門左・綱吉篇)」など。

2013年7月からTBS日曜劇場「半沢直樹(仮)」で主演。10月はフジ「リーガル・ハイ」が再び登場。



■ラジオ部門■

委員長 桜井聖子

副委員長 石原信和

委員 池本孝慈 茅原良平 近藤倫章 紺野 望 武田三千代 塚本 茂 原 きよ
ペリー荻野 松浦正和 柳瀬博一 山本 索

上期 30 本、下期 34 本で計 64 本、前年度同数の応募があった。部門別は、生ワイド I・II、11 本。音楽&エンタテインメント、17 本。ドラマ、15 本。報道・ドキュメンタリー、21 本。特徴として、生ワイドが前年度比 6 本減。これはイベント連動や特別番組の応募減によるもので、結果としてレギュラー枠内での企画勝負となった。震災・原発事故関連は、時の経過により、制作者の視点で何をどう伝えるか、より絞り込んだ作品となっていた。また、コミュニティ FM の応募が目立ち、特に下期は、より作品性が求められる音楽&エンタ、報道ドキュメンタリー部門に多くあった。しかし、完成度の弱さで賞に届かず。十分とは言えない制作環境なかでの番組評価の基準を再考する契機とした。また、選考前に下期応募の「小沢昭一の〜」(TBS)は、これまでの功績を含め、特別賞とした。選考は投票形式で行われ、議論、投票を繰り返し、上期下期で選出した入賞候補作品 16 本から、各部門 2 本ずつ計 8 本の入賞作品を選出。いずれも、各部門の本流を貫いた作品が入賞となった。

生ワイド I・II 部門は、「日々感謝 〜」(中国放送)は、被爆 67 年前の現実を被爆者と詩人アーサー・ピナードの言葉で伝えた同時に、福島原発事故も見つめ戦後世代に迫る意義ある番組。「三宅裕司〜」(ニッポン放送)は、パーソナリティカ、ベスト盤の音楽の力、リスナー参加と生ワイドの王道を高い次元でまとめ上げている。

音楽&エンタテインメント部門は、音声メディアならではのチャレンジ作品。「調律師という芸術家〜」(朝日放送)は、室内楽ホールで収録された、ほんのわずかな音色の違いで「調律」の繊細かつ奥深さに迫る知的興奮に満ちた作品。「地点〜」(J-WAVE)は、戯曲「光のない。」のメッセージを劇団「地点」の取材から読み解き、言葉のもつ力とは何かにまで言及した意欲作。

ドラマ部門は、「橋爪功ひとり芝居〜」(日本放送協会)は、橋爪功の円熟の演技力、ホームレスに三か月にわたる取材したスタッフの努力も反映されドラマで高く評価。「40 才のタンカーユーエー」(琉球放送)は、復帰前後の沖縄の世相を象徴する音声と音楽を織り交ぜながら、社会性と娯楽性を併せ持つ聞きごたえのある作品。

報道・ドキュメンタリー部門は、「原発作業員が語る 2 年」(毎日放送)は、原発作業員と 2 年間の取材で築いた信頼関係が引き出した証言。過酷な労働の実態が明らかになっていく迫力ある作品。「凍えた部屋〜」(北海道放送)は、札幌の 40 代姉妹の孤立死事件を多角的に粘り強く取材し、届かなかった姉妹の SOS、行政の怠慢な対応をあぶりだした力作。

はたして、大賞、優秀賞はどの作品に？

さらに大賞は大接戦の末、決定したことを記しておく。

(桜井聖子)



ラジオ部門特別賞

小沢昭一さん追悼特別番組

～あしたのこころだ…小沢昭一について考える

TBSラジオ&コミュニケーションズ

1973年から2012年12月まで約40年放送された「小沢昭一の小沢昭一的こころ」は、時事問題から下ネタまで幅広く言葉巧みに世相を切り取り、“口演”と称した小沢昭一の見事な話芸で人気を博し、ラジオ界に大きな功績と足跡を残しました。この追悼番組では、過去の放送音源から厳選した、都々逸、独り芝居、ハーモニカ演奏など名場面に込められた「ラジオのこころだあ」が熱く伝わります。永六輔をはじめ親交の深かった人々からの追悼メッセージは、小沢昭一の素顔を覗かせ、魅力ある人物像を浮かび上がらせました。そして、制作者たちの静かな想いと、たしかな腕がふるわれています。これまでの全業績を含め、追悼のこころをこめて特別賞を贈ります。

ラジオ部門DJパーソナリティ賞

ピーター・バラカン

「Barakan Morning」(Inter FM)、「Tokyo Midtown presents The Lifestyle MUSEUM」(TOKYO FM)「ウィークエンドサンシャイン」(NHK) パーソナリティとして

「自分で選んだ曲」を「自分の言葉」で紹介する。DJとしての30年余、一貫して守って来たその姿勢は、多くのリスナーの信頼を得ています。深夜と言うより朝に近い時間枠の番組であっても、手を抜いたりそのやり方を変えることはありませんでした。自分がいいと思う音楽をみんなに聞いて欲しいという強い思いは、リスナーの心に届いています。ジャンルでくくらず、ミュージシャンの名声に囚われることのない選曲は、音楽の自由な楽しみ方を教えてくれました。また、ライブの場へは積極的に通い、知識を増やし見識を高めるための自己研鑽にも怠りはありません。今やインターネット上に、音楽情報は溢れています。しかし自分が気に入る音楽が見つけれられるとは限りません。「こんないい曲があるよ」ラジオからのその一言が、生涯の友となる音楽とリスナーとの幸福な出会いを叶えてくれます。良き音楽の紹介者として、ラジオの牽引役として、活躍を期待します。

<プロフィール>

1951年ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学科卒業。74年来日。音楽出版社の著作権業務などを経て、現在はブロードキャスターとして、ラジオ、テレビへの出演、DJライヴ、執筆活動などを展開している。音楽への深い愛情、的確な批評やコメントにより、長年にわたり番組を視聴し続けるファンが多い。「バラカン・ビート」(インターFM)、「ウィークエンド・サンシャイン」(NHK-FM)、「TheLifestyle MUSEUM」(TOKYO FM)、「CBS 60 ミニッツ」(TBS ニュースバード)、「Begin Japanology」(NHK ワールド)などに出演中。著書に『ぼくが愛するロック名盤240』(講談社+α文庫)、『魂(ソウル)のゆくえ』(アルテスパブリッシング)、『ロックの英詞を読む』(集英社インターナショナル)、『猿はマンキ、お金はマニ 日本人のための英語発音ルール』(NHK出版)など。



■ CM部門 ■

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 秋吉淳一郎 小川幸子 河合良文 草川 衛 田家秀樹 田中秋夫 谷岡理香
千葉健吉 本庄雅之 茂出木龍太 山家誠一

本年度のギャラクシー賞CM部門(2012年4月1日から2013年3月31日放送分)には、上期135本、下期145本、計280本(シリーズも1本としてカウント)の応募が寄せられた。ここ数年、リーマンショックでの経済情勢悪化や大震災の影響もあって、横ばいあるいは若干の応募減が続いていたが、50周年を迎えるにあたり、減少への歯止めがかかったことはまことに嬉しいかぎりである。

応募のなかで特筆したいのは、シリーズとしての応募が飛躍的に伸びていることである。上期45本、下期61本がシリーズ作品である。シリーズの応募が全体に占める割合は38%近くになっている。さらに、本来はシリーズとして制作されたものが、応募にあたり総集編として一本にまとめられたCMもあるようだ。このことを勘案すると、全応募作品のなかでシリーズの比率は更に上昇するのである。

粒よりの作品が集まった。すべてが粒ぞろいであり、粒だった。CMの随所にはアイデアがほとばしり、制作者の苦労のあとがしのべられた。が、甲乙つけがたく、言い換えるならば、小粒だった。突出した作品が少なかったのである。前回のギャラクシー賞には、3.11の大震災直後に放送されたCMの応募があった。それらの多くにこころの琴線が揺さぶられた。しかし残念ながら、今回の応募作にはそのときの感動がなかった。制作者の熱き思いが伝わってこなかったのである。

もっと野心を。もっと茶目っ気を。それらを全面に押し出した制作者の気概と迫力が、CMをもっと元気にしてくれると信じたい。アベノミクスとやらで、日本経済は上昇の機運。CMに費やす予算が増えて、制作者たちのはじける笑顔が見たいと思う。

入賞作品をご紹介します。

赤城乳業 脱力感あふれるへんなおじさん登場。これぞ15秒というお手本のシリーズ。

アステラス製薬 ほのぼのとしたアニメが心に響く。新薬を擬人化した手法がユニーク。

江崎グリコ CM業界の裏話を逆手にとってユーモアたっぷり。キャスティングが際立つ。

大塚製薬 満嶋ひかりの圧倒的存在感。受験生にエールをおくる歌が素晴らしい。

キャノン 花火やお化粧・野球など、こどものはじめての感動がリアルな映像になって。

キリン バンド再結成や長州との対戦など、夢を追い求める個人にスポットをあてた。

クロスカンパニー 宮崎あおいの愛らしさが、美しい映像と力のあるコピーが迫ってくる。

全日本空輸 30秒のワンカットストーリー、それぞれがココロの機微を鮮やかに描きだす。

東海テレビ 交通事故の悲惨さを声高に訴えるのではなく、単純な映像に絞り込んだ秀作。

ナイキ ナイキが甲子園球児を題材に。その意外性に拍手。球児のコメントがユニーク。

ホンダ 創業以来の名車の数々が映像の主役。負けるもんかに代表されるコピーが秀逸。

ムラタ漢方 バッティングセンターでのおばあさんたちの迫りにユーモアと存在感が。

YKK 窓を考える企業にふさわしい映像と名作の一説。映像も細かい配慮が。 (五井千鶴子)



■報道活動部門■

委員長 鈴木嘉一

副委員長 市村 元

委員 稲塚秀孝 小原道雄 加来由子 兼高聖雄 河邑厚徳 福島俊彦 堀川恵子
堀木卓也 宮前周司

ギャラクシー賞に「報道活動部門」が新設されてから 10 周年を迎えた 2012 年度の応募総数は、上期 8 本、下期 15 本の計 23 本だった。前年度より 1 本増えたが、例年に比べて多いとは言えない。しかし、下期は全体にレベルが高く、充実した選考会となった。上期 3 本、下期 6 本に絞られた入賞候補作の中から、6 本の入賞作が選ばれた。

今回の特徴は、ローカルのニュース番組での特集やドキュメンタリーにとどまらず、実話を基にしてドラマを作ったり、映画化して巡回の自主上映会を開いたりする試みが見られたことである。これらの入賞作は、テレビの報道活動の新たな展開と方向性を示している。東日本大震災と福島原発事故の関連では、東北地方の民放ローカル局などから 6 本の応募があった。今後も継続的に追うべきテーマなのはあるかもしれない。

北海道テレビ放送「重い病気の子ども達のための“そらぶちキッズキャンプ”を伝えた一連の報道」。 専用キャンプ場の計画段階から完成まで 8 年間にわたり、ローカルのワイド番組やドラマ、ドキュメンタリーで伝えてきた取り組みは、多彩な報道活動として評価される。

福島放送「南相馬市小高区の農地復旧における一連の報道」。 農作物の出荷制限区域で多くの困難を抱えながら、農業の再建に取り組む農民たちの死闘を定点観測的に追い、地元局としての使命や役割を發揮している。

南海放送「太平洋核実験被害の真実を伝える『放射線を浴びた X 年後』映画自主上映を含む報道活動」。 ビキニ環礁での水爆実験をめぐるアメリカ原子力委員会の極秘文書を明らかにするなど、現代史の闇に沈んでいた衝撃的な事実を粘り強く掘り起し、優れた調査報道となった。

毎日放送「Jump Over Cancer MBS がん検診啓発キャンペーン」。 関西地方ではがんの検診率が低いという現実から出発し、がん治療の最前線や検診の内容などを多角的に伝え、有効性のあるキャンペーンとなっている。

沖縄テレビ放送 OTV スーパーニュース シリーズ企画「復帰を知る」。 本土復帰 40 年という節目の年に 21 本の企画を放送し、今の基地問題につながる沖縄の戦後史の一断面を明らかにした。当事者へのインタビューは貴重な証言である。

伊万里ケーブルテレビジョン「続・市営散弾銃射撃場鉛汚染問題における一連の報道」。 鉛汚染問題は市側が鉛の回収を表明し、解決への一歩を踏み出した。これは、2011 年度の優秀賞を受けてからも続けた一連の報道の成果だろう。

(鈴木嘉一)



放送批評懇談会 第 4 回志賀信夫賞

＜志賀信夫賞選考委員会＞

委員長 音 好宏

選考委員 橋本 隆 上滝徹也 小田桐 誠 藤田真文

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなどに、幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当会の理事会で選任された 5 名で構成される選考委員会が、慎重、かつ、多角的な討議を重ねた結果、第 4 回志賀信夫賞の受賞者には、選考委員の全員一致で、株式会社ビデオプロモーション名誉会長の藤田潔氏と、TBS「調査情報」を選出いたしました。

藤田 潔

藤田潔氏は、1960 年にビデオプロモーションを設立。マネージメント業、番組制作、広告代理店業などを多角的に展開するユニークな総合広告会社・ビデオプロモーションを拠点に、長年にわたり、新たなテレビ番組の企画開発、テレビ番組を通じた海外との提携、ユニークなテレビタレントの発掘、クロスメディア展開などに尽力してきました。アニメ「鉄腕アトム」の米国輸出や、マスターズの衛星生中継を実現したほか、「11PM」、「こちらデスク」、「世界遺産」、「美の巨人たち」などといった日本のテレビ史に残る斬新な番組の企画開発に関わり続けました。

それらのお仕事は、常にテレビ界、メディア界の注目を集めるものであるとともに、日本のテレビ文化の発展に多大な貢献をされました。加えて、藤田氏のリスクを恐れず、自らの番組企画を実現していくそのエネルギーと行動力は、多くのテレビ人に夢と勇気を与えてきました。

長年にわたり日本のテレビ文化の発展に寄与され続けてきた藤田氏の活動は、まさに志賀信夫賞に相応しいものです。よってここに志賀信夫賞をお贈りします。

＜プロフィール＞

ふじた・きよし 1929 年愛媛県新居浜市生まれ。53 年早稲田大学商学部卒業、ラジオテレビセンター・ビデオホール入社。1960 年総合広告会社の株式会社ビデオプロモーションを設立、社長に就任。63 年アメリカ NBC に「鉄腕アトム・アストロボーイ」をプロモート。日本テレビで「11PM」を企画、深夜ワイドショーの先駆者となる。75 年 TBS で「マスターズトーナメント」の衛星生中継を開始。テレビ朝日でニュースショーの草分け「こちらデスク」をスタート。96 年ユネスコの協力を得て、TBS で「世界遺産」をテレビ化。以降、テレビ東京で「美の巨人たち」「地球街道」、テレビ朝日で「100 人の 20 世紀」「グレートマザー物語」「食彩の王国」、BS ジャパンで「写真家たちの日本紀行」、BS-TBS で「グリーンの教え」「謎解き！江戸のスミ」など多くの番組を企画・スタート。2000 年ビデオプロモーション会長、09 年から取締役名誉会長。10 年日本宣伝クラブ「日本宣伝賞吉田賞」受賞。著書に「テレビ快男児」（プレジデント社）。



TBS 「調査情報」

テレビ放送開始から5年後の1958年に創刊されたTBS「調査情報」は、2011年5月に通算500号に達しました。放送専門誌は休廃刊が相次ぎ、一時書店に平積みされるのが年末の風物詩になっていたTV情報誌も大幅な部数減に喘いでいます。同誌は自社の経営環境をはじめさまざまな要因による苦難に直面しましたが、愛読者の応援を受け粘り強く刊行を続けてきました。半世紀を超えるその歴史は、戦後の放送史を映し出す鏡と言っても過言ではありません。

同誌は、時代状況やメディア環境の変容をビビッドに捉えてきました。毎号の特集テーマとその内容は、今も放送専門誌の枠に止まらない多様性を持ち続けています。同誌は時代には寄り添ったテーマだけではなく、埋もれかねない課題をも誌面化してきました。それこそが同誌の存在意義だったのではと考えます。また、新人ライターの発掘に努めるとともに、広範な書き手を起用してきたことも刮目に値します。こうした編集姿勢は、月刊あるいは隔月刊でも、休刊後の復刊以降も、誌名が変わっても一貫していました。その足跡と実績は志賀信夫賞に相応しいものです。



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定！

マイベストTV賞第7回グランプリ

フジテレビジョン「鍵のかかった部屋」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「鍵のかかった部屋」には、「小説では分かりにくいトリックを見事に映像化」「キャラクター設定も面白く、音楽・内容など総合的に魅力的」「大野智と佐藤浩市、戸田恵梨香の3人の絡みが絶妙」といった視聴者の賞賛の声が数多く寄せられた。ヒントが隠されたオープニングから謎解きのシーンまで、緊張感と娯楽性が絶妙にブレンドされた本格的なミステリードラマで、大野智をはじめとする俳優陣の演技も素晴らしく、続編やスペシャル版も期待されている。

解説

マイベストTV賞に参加したWeb会員は、2013年5月12日現在で6185名。これに放送批評懇談会の正会員194名が加わった計6379名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、2012年4月度から2013年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作39本（特別投票3本を含む）の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

924票を獲得しグランプリに選ばれたのは、フジテレビの「鍵のかかった部屋」。“作り手側の創意工夫にどこまで気づけるか、受け手側が挑戦されているような感覚さえあった”“3人の掛け合いがコミカルで、子どもも大人も楽しんで見られた”“動かずとも喜怒哀楽を表現していた大野智の演技がいい”といったコメントが寄せられるなど、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位はNHKの「すべては夢を届けるために～ウォルト・ディズニー創造の軌跡」。“まるで自分が体験しているような錯覚に陥った”“大野智のナビゲーターとナレーションが素晴らしい”など番組内容の良さとともに、こちらも大野智ファンの強い支持を集めた。

第3位はNHKの「嵐の明日に架ける旅～希望の種を探しに行こう～」。“震災への意識が薄れる中、こうして改めて触れてくれる番組はいい”“嵐の5人の個性・人柄が出ていて、内容もとてもためになった。子供たちに見てもらいたい”など、嵐ファンから強い支持を得た。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定するが、ニュース番組やバラエティ番組といったレギュラーで放送されている作品をノミネート作に盛り込むなど、新しい試みを実施する予定である。



最終投票結果

第 1 位	鍵のかかった部屋 (フジテレビ)	924 票
第 2 位	すべては夢を届けるために～ウォルト・ディズニー創造の軌跡 (NHK)	817 票
第 3 位	嵐の明日に架ける旅～希望の種を探しに行こう～ (NHK)	810 票
第 4 位	第 63 回 NHK 紅白歌合戦 (NHK)	328 票
第 5 位	PRICELESS～あるわけねえだろ、んなもん! (フジテレビ)	314 票
第 6 位	24 時間テレビ 愛は地球を救う 35 (日本テレビ)	311 票
第 7 位	SMAP がんばりますっ!! 2012 (テレビ朝日)	257 票
第 8 位	堂本光一のちょこっとサイエンス (NHK)	210 票
第 9 位	BS プレミアム ザ少年倶楽部 プレミアム 堂本光一 (NHK)	201 票
第 10 位	BS プレミアム 火星大冒険!～地球外生命を発見せよ～ (NHK)	189 票

参考

★どんな賞?

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO (特定非営利活動法人) になったことを節目として創設されることになりました。NPOとして、放送と市民との橋渡しとなるような活動を強化したいと考えたからです。放送局が送り出すたくさんの番組たち。果たして視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。

視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

視聴者がだれでも自由に参加できる本格的な番組賞が、日本に初めて誕生しました。

★賞の本数、対象年度

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度 (4月～翌年3月) ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

★賞の仕組み

審査員は放送批評懇談会正会員、Web会員。選出は放送批評懇談会ホームページの投票で行なう。

毎月の候補番組は放送批評懇談会選奨事業委員会テレビ部門が制定。

会員は毎月1回、IDとパスワードで投票ページに入室し、候補番組の中から3本まで選んで投票。

得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される。(投票の経過・結果はWebで発表)

会員は毎年4月、12か月のあいだに選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組5本を選んで投票。この年間のベスト番組投票で、もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、<ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ>に選出される。



NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日(任意団体放送批評懇談会=1963年4月)

■会勢 正会員194名 維持会員137社

■役員

理事長=音好宏 専務理事=橋本隆(総務担当)

常務理事=上滝徹也、小田桐誠、藤田真文(50周年委員長)

名誉会長=清水英夫 監事=隈部紀生、鈴木典之

理事=飯田みか(出版編集委員長)、藤久ミネ(選奨事業委員長)、碓井広義(企画事業委員長)、丹羽美之(選奨事業委員会テレビ部門委員長)、桜井聖子(選奨事業委員会ラジオ部門委員長)、五井千鶴子(選奨事業委員会CM部門委員長)、鈴木嘉一(選奨事業委員会報道活動部門委員長)、滝野俊一(マイベストTV賞プロジェクトリーダー)、石井彰、市村元、入江たのし、川喜田尚、小林毅、坂本衛、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登(事務局長)

■目的および事業

広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

(1) 放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業 (2) 優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業 (3) 放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業 (4) 放送に関する調査・研究事業 (5) 放送に関する団体や機関への提言事業 (6) 視聴者、放送関係者との交流事業 (7) 放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業 (8) その他、目的を達成するために必要な事業

■主な活動

放送の専門誌 [GALAC/ぎやらく] の編集・発行

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組の問題を様々な角度から取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰

本会がNPOになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間一本のグランプリを選出。

[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催

その時々の放送をめぐる関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。